

辺野古土砂北九州

発行…2020年2月・No.3



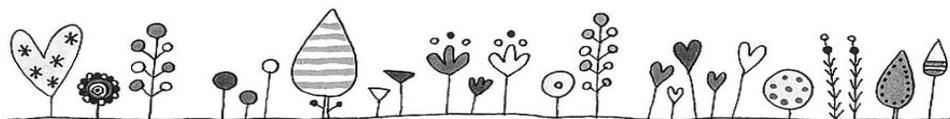
沖縄の浦島悦子さんが福岡に来られると言うので、北九州にも足を延ばしてもらい、お話をさせていただきました。普段とはちょっと違う内容に、参加された皆さんは、沖縄への思いがより深まったのではないのでしょうか。浦島さんありがとうございました。

《目次》

埋立土砂のほとんどを沖縄で調達？(北上田毅).....	2	ページ
香川県・軍隊のある風景植え付けるためか(名出真一).....	5	ページ
【連続エッセイ】しまくとぅばの魅力を追って(浦島悦子).....	7	ページ
報告・「浦島悦子さんと語る朝」.....	8	ページ
報告・DVD ロングラン上映会.....	10	ページ
お知らせ・ご案内「4月・瀬長和男講演会」「首里城カンパ」.....	11	ページ
今後の日程.....	12	ページ

写真提供…名出真一・八記久美子(敬称略)

発行 「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会



大幅に変更される辺野古新基地建設事業 埋立土砂のほとんどを沖縄で調達？

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 顧問 北上田毅(沖縄)

■委員会の中立性・客観性に疑問

土砂投入からほぼ1年が経過した。現在、防衛局は地盤改良工事の詳細設計を進めており、今年度末にも県に設計概要変更申請が提出される。昨年9月、そのための技術的な助言を得るために、土木工学の専門家による技術検討会が設置された。しかし委員の半数は政府系機関出身で、しかも複数の委員が受注業者から資金提供を受けていることが明かになるなど、委員会の中立性・客観性には疑問が出されている。

■「9年3ヶ月」は、防衛局の願望

防衛局は昨年末、総工事費約9千300億円、今後の工期は9年3ヶ月と発表した。工事完了後の引き渡し手続き等を含めると、事業の完了は12年先という。

しかしこれは、今から12年後に事業が完了するという意味ではない。知事の変更申請を承認しないから、それを国が不服とした裁判で勝訴し、知事の変更申請を承認せざるを得なくなった時が起点である。さらに、その後のサンゴ類の

移植や土砂の供給問題等もあり、事業終了までには結局20年ほどを要するだろう。「9年3ヶ月」というのは、防衛局の「願望」にすぎない。

以下、昨年末に明らかになった地盤改良工事や護岸・埋立工事の概要と問題点を指摘したい。

■「土砂の県内調達が可能」とは？

当初計画では埋立に必要な土砂の7割ほどは、西日本各地から搬送する予定だった。ところが防衛局は昨年末、「埋立土砂の必要量を県内から調達することが可能」と発表した。これを受けて、「埋立土砂、全て県内調達」と大きく報道されている。

ただ現時点では、埋立土砂の「全て」を県内で調達するとは確定していない。沖縄から近い鹿児島や奄美大島等からの土砂搬入はやはり実施される可能性が残っている。

それでも埋立土砂の「ほとんど」は県内から調達される。これには、2つの理由が考えられる。



名護市字安和(あわ)にある琉球セメントの工場

■理由その1…県外の土砂リスク大

まず、県外からの埋立土砂搬入には、特定外来生物の侵入を阻止するための土砂条例が適用される。手続きがあまりに煩雑で、知事が搬入中止を勧告すればその採石場からの土砂搬送ができなくなる。防衛局としては、県外からの土砂搬送はあまりにリスクが大きい。

■理由その2…利権問題

さらに採石業者の利権問題が考えられる。岩ズリは本来、二束三文のものだが、今回、琉球セメントの採石場から持ち込まれている岩ズリの単価は5,370円/m³で、3年前の3倍にもなっている。この単価で埋立土砂の全てを購入すれば、総額は約880億円にもなる。琉球セメントが、こんなぼろ儲けができる利権を簡単に手放すとは思えない。

沖縄では、名護市から本部町にかけて

広大な採石場が続いている。埋立土砂のほとんどが県内調達された場合、一帯の山々がさらに無惨に削り取られてしまう。辺野古新基地建設は、海だけではなく、沖縄の山も破壊するのだ。

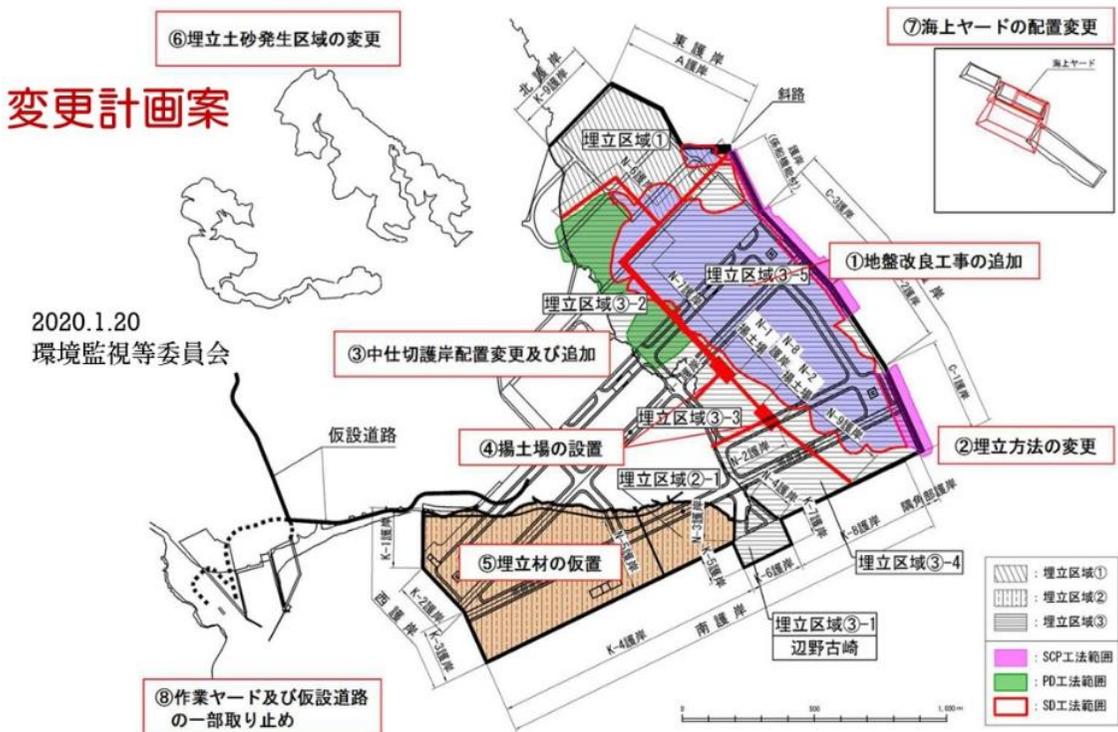
■工事の範囲・杭本数の大幅縮小

さらに防衛局は、大浦湾中央部の護岸工事の工法を大幅に変更した。工程を短縮するために区域を細分化し、順次、陸上部から土砂を投入するためだ。また、埋立土砂は当初は全て海上搬送の予定だったが、陸上搬送も併用し、辺野古側の埋立地全域を土砂の仮置き場とする。

地盤改良工事の範囲も大幅に減った。ケーソン護岸以外の護岸部分では地盤改良は行われない。

これらの変更に伴い砂杭の本数は大幅に減り、必要な砂の量も353万m³に半減した。ただ、それでも沖縄県海砂採

環境監視等委員会（2020.1.20）資料より



取量の約2年分にもなり、深刻な環境破壊が危惧される。

■危惧される環境破壊の増大

防衛局が現在検討している工法は、ともかく工期短縮を優先したもので、深刻な環境破壊が危惧される。

たとえば、A 護岸の鋼管矢板打設は、高圧水を噴射するパイプロハンマー工法が採用された。この工法は高圧水による濁りが避けられないが、打設速度が最も早いという理由である。

また土砂投入は、汚濁を防止するために外周護岸併合後に施工するはずだったが、工期短縮のためにケーソン護岸の施工前に土砂を投入する先行盛土が行われる。海底に管を下して土砂を散布するトレミー船で施工するというが、最深部は水深42mもあるから管は海底に届かない。土砂は途中で放り出され、汚濁は一面に拡散する。

また、ケーソン護岸背部では軽量盛土が施工される。護岸にかかる土圧を

山里節子さんは
三上知恵監督の「標的の島」に
出演されています。

石垣島から見えてくる戦争!



山里節子さん

先島で進められている自衛隊基地建設の、反対運動をされている山里節子さんのお話をお聞きます。

■日時…2020年3月10日(火)18時30分~21時

■会場…黒崎コムシティ3階大会議室(JR黒崎駅となり)

■お話…山里節子さん(石垣島在住)

・いのちと暮らしを守るオーバーたちの会 代表

・島の古謡を学ぶ「火曜会」会員

■資料代…500円

主催「山里節子さんの話を聞く会」実行委員会
お問い合わせ…070-5493-2686 みかみさんまで



北上田毅さん

軽減し負荷荷重を減らすために、土砂よりも軽い材料で埋め立てる。今回は、建設残土にセメントを混ぜて流動化させたものに界面活性剤で気泡を混合した材料が使用される。しかし、滑走路下の盛土部での強度等の検証結果は示されていない。

■知事の承認はあり得ない

以上、説明してきたように、まもなく県に提出される設計概要変更申請では、ともかく工期を短縮させるために環境への影響を無視した無理な工法が採用されており、破綻は明らかである。

知事がこのような設計概要変更申請を承認することはあり得ない。

(きたうえだつよし)

【シリーズ・日本の基地】香川初の日米合同軍事訓練…様々な団体が抗議

軍隊のある光景、植え付けるためか

ふるさとの土で辺野古に基地をつくらせない香川連絡会・名出真一

今回は「基地」ではありませんが、香川県初の日米合同軍事訓練の事を、土砂全協の仲間書いてもらいました。

■急ごしらえで宣伝カーをつくり

昨年12月1日から13日まで香川県で初めて日米合同軍事訓練が行われました。沖縄はもちろん、各地で行われる米軍の訓練に反対をしてきましたが、まさか香川で行われるとは全く想定していませんでした。

まして今回訓練の行われた国分台演習場は規模も小さく、すぐ近くには、四国八十八ヶ所霊場にもなっているお寺が2カ所あります。また、休暇村、少年自然センターなどもあり、普段から多くの人が自然を楽しんでいる場所です。

今回の日米合同訓練が市民に知らされたのは、わずか2週間前です。どのように行動すべきか議論をする時間ありませんでした。とにかく何もせずに黙って見ているわけにはいかないと、香川連絡会では、急ごしらえで宣伝カーをつくり、毎日時間のある人が演習地のある坂出市、高松市での街頭行動を行うことを決めました。

■様々な民主団体が抗議の意思表示

軍事訓練の始まる前日には、高松市内街頭で、「反対の声を上げていこう」「市民みんなで監視行動をしていこう」と呼びかけました。私たちの行動以外にも、労働組合・野党共闘などが高松駅前での抗議集会を行い、300人が結集しました。

また訓練期間中に、坂出市内の中学校が少年自然センターで宿泊学習を行う

ことになっていることもあり、教育関係の民主団体が、訓練の中止を県教育委員会に要請しました。演習場では私たち以外にも、全港湾が抗議集会を行いました。急なことではありましたが、様々な民主団体が抗議の意思表示をしました。



高松駅前での抗議集会に300人が集まった

■「沖縄の負担軽減」という名目で

しかしこの程度のことで、国家権力の暴力とも言える戦争演習を止めることができるはずもなく、国分台演習場ゲート前での私たちの抗議のシュプレヒコールをかき消すように、オスプレイが爆音をたてて、頭上を何度も何度も見せつけるように飛んでいました。

香川での訓練はどう見ても「訓練」として役に立つようなものではありませんでした。明らかに「沖縄の負担軽減」という名目で、私たち市民の中に「戦争の日常化」「軍隊のある光景」を植え付けるための「訓練」であると感じました。

そのためにこれまでの地域ではなく、各地に訓練の場を広げていこうとしているのではないのでしょうか。

■考えないようにしていた問題だが

この行動の中で私たちが考えなければならぬことも多くありました。

私たちは宣伝で「沖縄の負担軽減という名目になっているが、全く負担軽減にはなっていない」ということを訴えましたが、では「負担軽減」になるなら認めるのか。

私たちの地域では、日常的に自衛隊の演習は行われていますが、今まで全く問題視していませんでした。米軍はダメだが自衛隊は認めるのか。米軍も自衛隊も反対するのなら「防衛」はどうするのか。安保条約にまで反対するのか。その時には自国軍を持つのか。非武装中立を主張するのか。これまでは意識しながら考えないようにしていた問題が一気に吹き上がってきました。

また、改憲勢力は、阪神淡路大震災以降相次ぐ大規模災害で苦しむ被災者の感情を利用して、天皇制と自衛隊を市民の中に浸透させていくことに成功しています。今の情勢の中でどのように反戦平和を訴えていくのかは、なかなか意見のまとまらないところです。しかし今の軍隊の日常化は何としても止めなければなりません。

■機銃掃射を受けているような錯覚に

私は以前、車で走行中に米軍の戦闘機と遭遇したことがあります。場所は高知県大豊町豊永の橋の上。突然の爆音に思わず急ブレーキを踏んでしまいました。戦闘機の低空飛行です。この辺りは米軍のオレンジルートという、低空飛行の訓練ルートです。初めて遭遇しましたが凄まじ



シュプレヒコールをかき消すオスプレイの爆音
国防分演習場ゲート前にて

いです。何度も写真を撮ろうとしましたが流石に撮れませんでした。

驚きと、冗談でなく自分が機銃掃射を受けているような錯覚におちいり、恐怖感でいっぱいになりました。

人が住み車も普通に走行している真上を、我が物顔で飛び回る戦闘機を見た時に、これが日常になっている沖縄の方々の恐怖を、もしかかもしれません実感しました。

■ドクターヘリの離着陸場 17ヶ所とも

和歌山から徳島・高知・愛媛を通して岩国に帰る「オレンジルート」では、訓練中過去2回の墜落事故が起きています。

また、高知県は山間部が多く、救急搬送や防災のためにヘリ輸送を行うことが多くあるのですが、ドクターヘリの離着陸場の17ヶ所は訓練ルートと重なっています。

私自身が遭遇した低空飛行は、事前通告のないものでした。ドクターヘリなどが知らずに飛んでいて、事故になる危険性があるのではないのでしょうか。

■本当に必要なのか

日米地位協定によって、日本は米軍に対してまったく権限がなく、住民の生存権すら踏みにじられています。私がこの不条理を感じることは、日常ではこれまでありませんでした。

しかし沖縄では日常です。米軍は本当に私たちに必要なのでしょうか。急速に軍隊化が進んでいる自衛隊は、災害救助以外に必要なのでしょうか。

これらの事と正面から向き合い、危機を煽り戦争参加する事で、莫大な利益を得ようとしている亡者に勝たなければ私たちの未来はなく、これまで犠牲になってきた先人に対しても報いることはできないと感じています。課題は大きく壁は高いですが、共に闘いましょう。

(ないでしんいち)

浦島悦子の連続エッセイ 《南の島から》 No.3

しまくとぅばの魅力を追って

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



沖縄県しまくとぅば普及センターが主催する「しまくとぅば講師養成講座（初級）」が北部で初めて開講されるので「ぜひ」という友人の勧めで応募し、昨年9月から毎週末、名桜大学生涯学習センター（名護市在）に通っている。2月には認定試験があり、合格したら中級、上級へ進むことができ、沖縄県知事名で認定証が交付されるという。「講師」をめざすというより「しまくとぅば」を学びたくて受講したが、学ぶほどに、その奥深さ、面白さ、そして難しさを日々感じさせられている。

*

「うちなーぐち」ではなく「しまくとぅば」と称するのは、沖縄島を含む琉球諸島の各地域、どころか、隣り合う集落（「シマ」と呼ぶ）でも異なる言葉の多様性を表すためだ。専門的には「琉球諸語」と言い、ユネスコの危機言語に指定されている。沖縄県では、ネイティブの話者が減っていく中、言葉を消滅から守り、復活させ、後世に伝えていこうと講師の養成に取り組んでいる。

*

言葉は最大の文化だ。その中には、その土地の自然風土や歴史、人々の暮らしや人間関係、智恵、心のありよう、思いや願いなどのすべてが込められている。地形や自然条件などでシマジマが隔てられ、それぞれ独自の言語を生み出してきた時代から、交通が発達し、島々・シマジマの交流が盛んになり、生産や暮らしのありようが変化していく中で、言葉も変化していくのは避けられないが、それぞれの「しまくとぅば」の「香り」や

「匂い」とでも言うべき先人たちの思いを汲み取り、次の世代に手渡していけたらと願っている。

*

講座の初回、「なぜしまくとぅばを学ぶのか」の講師を務めた狩俣繁久・琉球大学教授は次のように語った。「シマとは故郷であり、しまくとぅばとは故郷のことばである。集落が違えば言葉も違うという多様性こそが命であり、しまくとぅばの標準語はいらない。標準語を作れば、しまくとぅばではなくなる」と。「標準語」を作ることは、ウチナーグチがヤマトグチ（日本語）によって「追放」されたのと同じことをやるに等しいという。それを聞いて、もやもやしたものがすっきりと胸に落ち、大きな感銘を受けた。と同時に、では、その多様な言葉をどのように学び、伝えていけるのかという、新たな「もやもや」というか難題がずっしりとのしかかるのも感じた。私の隣に座っていた女性は「ここに来たら、しまくとぅばの標準語が学べると思ったのに、違うんですね…」と困惑気味だった（が、この彼女も、私と同様、皆勤で学んでいる）。

*

以来4か月余、初級の認定試験（2月15日）を目の前に、合格する自信はまったくない。発音の仕方、口や喉の、どの部分を使うのか、とか、国際音声記号による表記とか、難しいことこの上ないのだ。しかし合否は別にして、これからも、しまくとぅばの魅力を追いつけていきたい。（うらしまえつこ）

【報告】 1月19日

《紅茶を飲みながら浦島悦子さんと語る朝》 自然から文化が生まれ人々の暮らしがある だから、これらを壊す基地建設に反対なんです



参加者のリクエストで、「二見
情話」を歌う浦島さん。

キャンプシュワブのゲート前から、車で 6～7 分くらいの三原という集落に暮らす浦島悦子さん。そこには、昔から自然に生かされた人々の暮らしがありました。今回は、辺野古の昔からの暮らしや、そこに暮らしてきた人々の心を、お話していただきました。

参加者は 20 数名でしたが、紅茶の香りに包まれた、大切な時間を過ごすことができました。



当日は、戦前、戦後を生きる一人の女性とジューゴとの触れ合いを通して、地域の歴史と、自然や平和の大切さを伝える紙芝居浦島作もありました



参加者の感想から

※多様な生き物が共存する大浦湾は、そこに暮らす人々に限りない恵をもたらす自然の宝庫。その自然から文化が生まれ人々の暮らしがある。その源を潰そうとする安倍首相。同じ日に安倍首相は、日米安保改定 60 周年記念式典を行った。その安全保障の薄っぺらさを際立たせた小さな集まりになったと思う。大野

※祖先を大切にすると同時に、自然も、習慣も大切にしている沖縄の暮らし。「沖縄には宗教はないが信仰がある」の言葉が印象的でした。田中

※交流タイムで、日米安保条約に関する質問が出ました。辺野古のたたかいは「新基地を造らせない」という一点、辺野古土砂北九州も「故郷の土砂を搬出させない」という一点で、様々な人たちが集まり力を合わせています。ただ、今後の課題として「日米地位協定」や「安保条約」について、「まずは学習をする場が必要になってくる」ことを感じました。世話人

沖縄の文化交え 新基地問題学ぶ

福岡

「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会は19日、北九州市小倉北区で沖縄県名護市辺野古の米軍新

基地建設をめぐる学習交流会を開きました。

21人が参加。名護市のへり基地いらぬ二見以北十区の会共代表でフリーライターの



自然豊かな大浦湾を守ることは自分たちの世代の責任だと話す浦島氏。19日、北九州市小倉北区

浦島悦子さんを講師に、辺野古をはじめ沖縄の伝統文化や歴史に触れながら、住民のたかいたかいを学び、紅茶を飲みながら交流しました。

浦島氏は、自然の恵み豊かな大浦湾（基地建設予定地）が昔から地域の人々の営み、生活と密着し支えてきたとし、「自分たちの世代の責任としてたかいたかっている」と訴え。戦前戦中を生きる女性とジュゴンの触れ合いを描いた自作の紙芝居の

上演や、戦後につくられた反戦歌でもある叙情歌の「二見情話」を披露しました。

参加した50歳の女性は昨年、ネットを通じて辺野古新基地建設のための土砂投入の停止を求めるホワイトハウスの請願などに関心をもち、「ネットだけでは本当のことが分からない。（新基地反対の）声を大きくしていきたい」と話しました。

訃報

共に土砂搬出反対で頑張っていた「辺野古埋め立て土砂搬出反対」熊本県連絡協議会の事務局長・生駒研二氏が、癌治療の甲斐もなく、1月16日死去されました。

元高校の教師。いつも穏やかで優しい人柄でした。

仲間の死を悼み、辺野古土砂北九州からも弔電を打ちました。



在りし日の生駒さん。4年くらい前のバスの中で一枚です。

さすがに7時間は
見る方も、主催した方も
くたびれました

【報告】1月5日

《ロングラン DVD 上映会》

「自分たちの団体で見たいけ貸して」のうれしい声

辺野古土砂北九州では、これまで会で買った上映権付の DVD 等の再上映会（5作品・のべ7回上映）を、1月5日（日）八幡西生涯学習センターで行いました。参加者は37名でしたが、上映会終了後や後日、「こんな恐ろしい現実があるとか知らなかった。自分たちの団体で見たいけDVD貸して」と、当会加盟の3団体から声がかかりました。

有事の時に島の人たちはどうなるの…。



この日の DVD はそれぞれが関連した作品でした。全作品を見ると、ちょっと荒っぽい表現ですが、《米国と中国の間で争いがおこった時、鹿児島から沖縄に伸びた南西諸島で抑え込み、本土に及び戦争にはしないという米国の計画がある。そのために、奄美大島・宮古島（ミサイル部隊の司令部がおかれる）・石垣島などに、自衛隊のミサイル発射基地が作られている。また、それらのことを安倍政権は、昨年2月22日閣議決定した。そしてその基地をドローンが映し出した》という流れでした。

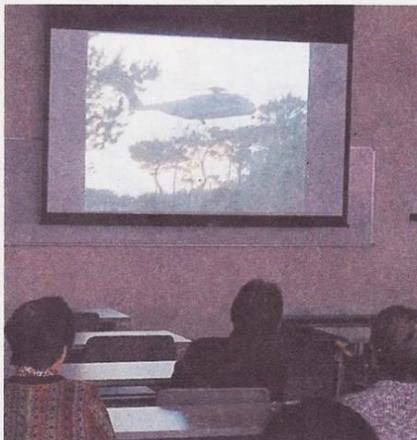
北九 14 版

2020年(令和2年)1月7日(火)

享月

基地・埋め立て…沖縄の今映す

米軍基地が集中する沖縄で今、何が起きているのか——。名護市辺野古での基地建設などを記録した映像作品の上映会が5日、北九州市八幡西区であった。強行される埋め立て工事やミサイル配備に反対の声を上げる人々の姿



沖縄で進められる米軍基地建設の映像に人々は見入った＝5日、北九州市八幡西区

に、集まった市民らが見入った。

市民団体「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会が主催した。1本目はニュース番組で放映されたもので、辺野古の新基地が1960年代にすでに米軍によって計画されていたことを報じる内容だ。

ドローンで撮影した記録映画「ドローンの眼」（沖縄ドローンプロジェクト、森の映画社製作）は、辺野古のサンゴの海に土砂が流し込まれ、濁り水が流出して海を汚染する状況を上空からとらえている。

ミサイルが配備される離島の人々の声を伝える作品や、一連の基地建設が中国に対する日米の防衛態勢に深く関わることを指摘したインタビュー映像など計5本が上映された。

主催団体の八記久美子事務局長は「なぜ基地が建設されるのか。米国のために危険な状態に置かれている現実を知ってもらいたい」と語った。

（川端俊一）

八幡西で映像作品の上映会

「ドローンの眼」は、映像を見るだけでなく奄美・沖縄・宮古・石垣等がどんなことになっているのか、一目瞭然の作品です。著作権の関係で、当会の加盟団体にはお貸しすることができません。お声をおかけください。0800・1730・8895まで
1月7日の朝日新聞に、当日の記事が掲載されました。

主催 辺野古土砂北九州

カメジローの孫、来る!

沖縄統一連事務局長

瀬長和男氏講演会

《翁長前知事の遺志・建白書実現と日米地位協定改定を》



瀬長和男さん

■4月26日(日)14時~16時

■北九州生涯学習総合センター

3階・大ホール(大門・警察署横)

■参加費 1000円

詳しいことは来月号でお知らせします。

首里城火災復旧支援カンパ ありがとうございました

第4回目のカンパとして、1月7日に21,000円を振り込みました。これまでの合計金額は、134,127円になりました。ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

なお、今後カンパをされる方は、下記の口座をお願いいたします。

■沖縄銀行・本店営業部・普通 2603484

首里城火災に対する支援金活動事務局

■振込先は、このほか、郵便局や他の金融機関もあります。詳細は那覇市のHPをご覧ください。

お取扱日	店番	お取引内容
02-01-07	74063	通帳送金
記号	番号	
*****	****9151	
取扱番号	お取引金額	
N007	*21,000	
	残高	
沖縄銀行		
本店営業部		
普通	2603484	
シュリン ヨウカサイニクタイスルシエンキンカツウシムキヨク		
送金料金	*220円	
振込予定日	02-01-07	
ヘノコウメタテ*シャハンシュツハンタイキタクユウシユウレン		
ご利用いただきましてありがとうございました。		
— ゆうちよ銀行 —		

《辺野古土砂北九州・今後の予定》



- 2月06日(木)…《第6回世話人会》 18時30分～・生涯学習総合センター
情報学習室。オブザーバー参加できます。のぞいてみませんか。
 - 2月12日(水)…《第13回・門司地域ビラ配布》 14時門司駅前南口(山側)集合
みなさんの参加をお待ちしています。
 - 2月22日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》 16時～17時
大浦湾の海の生き物たちの写真を持っていただけると助かります。
ぜひ、ご参加ください。
- ※1月の宣伝では、通りかかった小学生が「初めて署名をします。お母さんには話してい
いけれど…」と、署名と4円のカンパをしてくれました。また、沖縄の方が通りかかり「訴え
てくれてありがとう」と、手が痛くなる程の握手をしてくれました。街頭宣伝には、いつもド
ラマがあります。
- 2月24日(月)…《会報発送作業》 13時～15時くらいまで パークサイド(大手町)
 - 4月26日(日)…《瀬長和男講演会》 14時～16時 北九州生涯学習総合センター

《編集後記》

ゲート前に行くと、男性もそうですが、たくさんの女性が頑張っています。1月に行
った時は、沖縄市民連絡会の高里鈴代さんが司会をされていました。70代半ばくら
いだと思いますが、お元気です。そして、ゲート前に座り込む私たちを排除しよう
とする機動隊に向かって、「私たち県民は国政選挙や県民投票で何度も新基地反対の民意
を示してきました。その民意を足蹴にする政府に抗議するために、憲法で保障する表
現の自由に基づいて私たちは座り込んでいます。私たちの座り込みは県民の総意です」
と、強制排除をやめるようマイクで訴えていました。その力強く凛とした姿に、私は
感動すら覚えました。ゲート前は、いろんな魅力に溢れています。(y)



「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会
〒803-0816 北九州市小倉北区金田 1-3-32-308 八記方
八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂均 090-6299-2608
kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp